

取組項目 No.7 多重防災型まちづくりの推進

〔取組概要〕

- 東日本大震災津波では、防潮堤・水門等の建設と集落の山側への移転を組み合わせたハード面での津波対策が機能し、集落への人的・物的被害を最小限とすることにつながった岩手県普代村のような例がありました。
- 一方で、岩手県の沿岸市町村においては、防潮堤や公共施設の高台移転等のハード整備を行うとともに、避難等を重視したソフト対策の充実に取り組み、ハードのみに頼らない津波防災対策を基本としてきました。東日本大震災津波では、防潮堤をはるかに越える津波は発生しましたが、こうしたソフト対策は多くの住民の迅速な避難行動につながり、被害の拡大を防ぐ結果となりました。
- また、被災地において実際に検討されてきた事例を踏まえ、「東日本大震災津波伝承まちづくりガイドライン」を策定し、まちづくり計画において配慮すべき項目を整理し、「災害に強い」と同時に「快適で魅力ある」まちづくりを推進しています。

取組事例 ① 普代水門～村民を守った防潮堤、水門について

普代村では、東日本大震災津波において震度5強の地震に見舞われたのに続き、最大でT.P.+24mに達する津波が襲来しました。津波は防潮堤、水門等を越えて川を町の中心部まで遡上したものの、ハード面での津波対策が機能し被害を最小限とすることにつながりました。



被災後の普代水門
出典：広報ふだい（平成23年3月号）

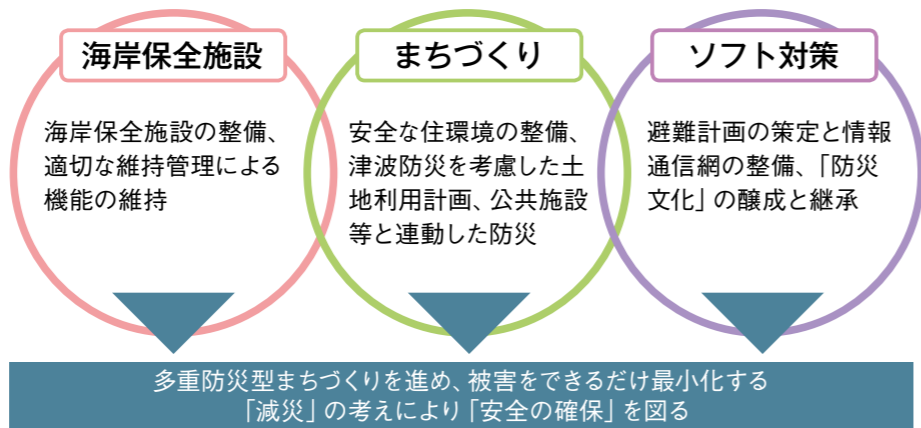


普代水門の全景

【普代海岸（地区海岸名：宇留部海岸）諸元】
・施工延長 205m（水門105m、堤防100m）
・計画天端高 T.P.+15.5m（明治三陸津波）
※県内で最大の高さ

取組事例 ② 「多重防災型の復興まちづくり」の推進について

津波対策の方向性



関連URL <http://www.pref.iwate.jp/fukkoukeikaku/keikaku/18258/008990.html>

取組事例 ③ 津波伝承まちづくりガイドラインの策定について

被災地のまちづくりを実際に支援している学識経験者を委員とする「津波伝承まちづくり検討委員会」における検討を踏まえ、以下のとおりまちづくりに関する具体の提案をしています。

- ①まちづくり全般に対する提案
- ②津波災害に対する提案
- ③魅力的なまちづくりに対する提案
- ④まちづくりの推進や地域運営に対する提案

【津波伝承まちづくりガイドラインの概要】

「津波伝承まちづくり」で大事なこと

三陸に住み続ける

次世代に誇りを持って渡せるまちの姿を描いておく
心の支えとなっている地域の文化を守る
以前よりも住みやすいまちをつくる

そのために……

- コンパクトなまちをつくる ▶ まちを広げすぎない
- ▶ 段階的にまちをつくる
- まちを便利にする ▶ 新しい技術を取り入れる
- ▶ みんなが使える拠点をつくる
- まちに集う ▶ まちに「たまり」をつくる
- ▶ ここにしかないものを活かす

記憶を継承する

教訓を活かしたまちづくりを心がける
次の世代に記憶を伝える

そのために……

- 逃げることを忘れない ▶ 逃げる「場」をつくる
- ▶ 逃げる「道」をつくる
- 津波を忘れない ▶ 記憶や記録を残す
- ▶ 経験や思いを伝える

魅力を守り育てる

三陸の海・山・川の魅力を再認識する
新しい魅力を創り出す

そのために……

- 地域の個性を意識する ▶ 三陸の景観を守る
- ▶ いぎぎとした街並みを創る
- ▶ 緑と水をつなぐ

みんなで前に進む

情報と状況を共有し「みんな」で取り組む
よりよい復興へ向けた仕組みを考える

そのために……

- 体制を強化する ▶ 情報を共有する
- ▶ やることを明らかにする
- ▶ 仕組みをつくる

津波伝承まちづくりガイドライン <http://www.pref.iwate.jp/anzen/machizukuri/18201/001813.html>

取組事例 ④ 復興事業の加速化に向けた取組について

陸前高田市の被災市街地土地区画整理事業において、高台移転箇所の切土工事で発生する土砂をベルトコンベアによって運搬しています。延長約3km、幅1.8mのベルトコンベアは、1日に20,000m³（10tダンプ4,000台分）の土砂を運搬することができ、ダンプ運搬よりも工期を6年程度短縮することができます。



奇跡の一本松とベルトコンベア「希望のかけ橋」
（岩手県陸前高田市）